

とうざん



有田町立有田小学校 校長 松尾 寛



浦川友喜さんの秋飾り

九州PTA研究大会に参加してきました！

10月26日(土)・27日(日)に長崎市出島メッセで開催された、第69回九州ブロック研究大会長崎大会に、長井PTA会長さんと参加しました。大会では、九州内の小中学校におけるPTAの持続可能な存続について話し合いました。以下は、その概要です。

◆分科会テーマ〔未来〕時代の変化に応じた持続可能なPTA活動

西松浦郡PTAが参加したのは、第1分科会でした。福岡の小学校と宮崎の中学校が発表をされました。内容は、前者が地域との関わりを大切に活動の1つとして灯籠まつりを開催したこと、後者は、PTAの役員を従来の選出でなく、主となる少数の委員さんを決め、他の方々は協力できる活動にボランティア的に関わるというものでした。これからのPTAの在り方について考えました。



じゃおどりも披露されました。

◆全体会〔学びを实践へ〕～集まろうで、語り合おうで、やってみようで～

2日目の全体会では、PTA活動の存在価値や、これからのPTAの組織の在り方などが提案されました。大会会長さんは、時代や学校、地域に応じたPATを創っていくことを話されました。

◆特別講演 講師：野々村 友紀子さん(放送作家・タレント)お笑いコンビ二丁拳銃の川谷さんの妻
テレビで歯に衣を着せないコメントをされる野々村 友紀子さんによる、40分間の講演があつという間に終わったように感じ、笑いあり、すばらしい言葉あり、元気をもらって大会を終えました。講演の中で、野々村さんが母として、妻として、大人として、以下のメッセージを話されました。

「私自身も幼い頃は、友だちの輪の中に入れず、人見知りの強い子どもでした。母親から、強く生きていきなさいと言われても、どうすれば良いかが分かりませんでした。強く生きるには、逃げても良いから、自分がやりたいことは続けました。我が子にも、強く生きてほしかったので、自分に自信をもたせるために、何でもやってみて、やればできる、あなたならできることを伝えました。人生を幸せに生きるために、①他人と比べない ②不幸を手放す ③小さな幸せを見つけることが必要です。①他人と比べないためには、嫌われない人より、好かれる人であることをめざしました。好かれる人は、自分の意志をもって生きている人です。嫌いな人のことはなるべく考えない。好きな人、大切な家族のことを考えました。②不幸を手放すためには、人々からの注目(スポット)は思っているほど、長くは自分にあたらない。自分だけ、どうして、悪いことが続くのかと考えるのではなく、自分にとって幸せなことを見つけましょう。③小さな幸せ(身の周りの出来事での喜び)を大切にしていきましょう。我が子も反抗期があり、大変でした。思春期の子どもは、関わろうとすればするほど反抗してきます。特別なホルモンが出ているから、今は本人も大変だろうと思えば良い。(これを本人に言えば、うざいと言われるから、自分で思っているだけにしましょう。笑!)大人になろうとして、自分の力で生きていけるといしましょう。人は完璧ではありません。足りない部分が、人間の面白さになる。失敗してええやん。そこから強く生きていけば良い。チャンスをもってくるのは神様でなく、人である。新しい出会いを大切に、自分で挑戦することを大切にしています。自分の後ろには、人や家族がいます。自分らしく正しく生きていましょう。口角を下げずに、人に頭を下げましょう。ありがとうは幸せになる魔法の言葉です。お互い様、お陰様で、母はハハハ、家族の太陽。笑い飛ばす明るい家庭を。」

アルミ缶回収のご協力、ありがとうございます！

11月10日(日)の日曜参観で、行われるPTA主催のバザーの品物の提供、ありがとうございます。また、総務部の皆さんが各地区で回収し、学校に持って来て頂き、ありがとうございます。バザーによる収益金が、有田小学校のPTAにおける大切な活動費になっています。例えば、学年での親子ふれあい教室に活用しています。今回も回収した物に、総務部の皆さんが値札を付け、当日、売り切って頂きます。どうぞ、地域の方々もお越し頂き、お買い求めて頂ければ幸いです。私も品物を提供し、当日は掘り出し物を買います。

また、日頃より体育館西側のアルミ缶回収袋に多くの空き缶を持ってきて頂き、ありがとうございます。持参して頂く皆さんのおかげで、有田っ子の教育活動に活用させて頂いています。例えば、アートギャラリーの展示用額縁や熱中症防止用の測定器の購入にあてています。



大好きなビールの空き缶を入れました。

古典落語の世界を愉しみました！

芸術の秋で、子ども達が普段、鑑賞する機会が少ないと落語を全校で愉しみました。1、2年生も落語の言葉の面白さや笑いの壺に誘われ、大笑いをしていました。6年生は、事前に一人に1つの小話を練習し、「一つ、お付き合いを頂きます。～」とステージで披露することが出来ました。国語科の学習にも伝統的言語文化として、落語や歌舞伎などが掲載されています。子ども達の柔らかな感性を豊かにし、日本語本来の話術の面白さを体感する良い機会となりました。



落語家さんによる落語を愉しんだ後、6年生の子ども達が小話を披露しました。しぐさや視線の配り方、間のとり方が上手でした。

実り多き、授業を続けています！

先週は、1年生の算数科やなかよし学級での自立活動の授業が行われました。それぞれの学級担任が、子ども達の学力や生活力を高めるために、教材や指導方法を工夫して取り組んでいます。少人数だからこそ。一人一人に応じた指導や支援を続けていきます。それによって、1学期より2学期、2学期より3学期が、お子さんにとって実り多き学校生活になるよう、これからも取り組んでいきます。



1年生の算数科では、タイルを使って自分で解き方を考えた後、皆の前で説明しました。なかよし学級では、自分が好きなものを、スリーヒントクイズにして、参観された先生方にインタビュー形式で答えてもらっていました。